

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第42回)

日時：令和7年11月12日（水）14:30～15:30

場所：西の丸会議室

次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事 • 二之丸庭園の修復整備について <資料1>

4 報告 • 二之丸庭園の修復整備について <資料2>

5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第42回)出席者名簿

日時：令和7年11月12日（水）14:30～15:30

場所：西の丸会議室

(敬称略)

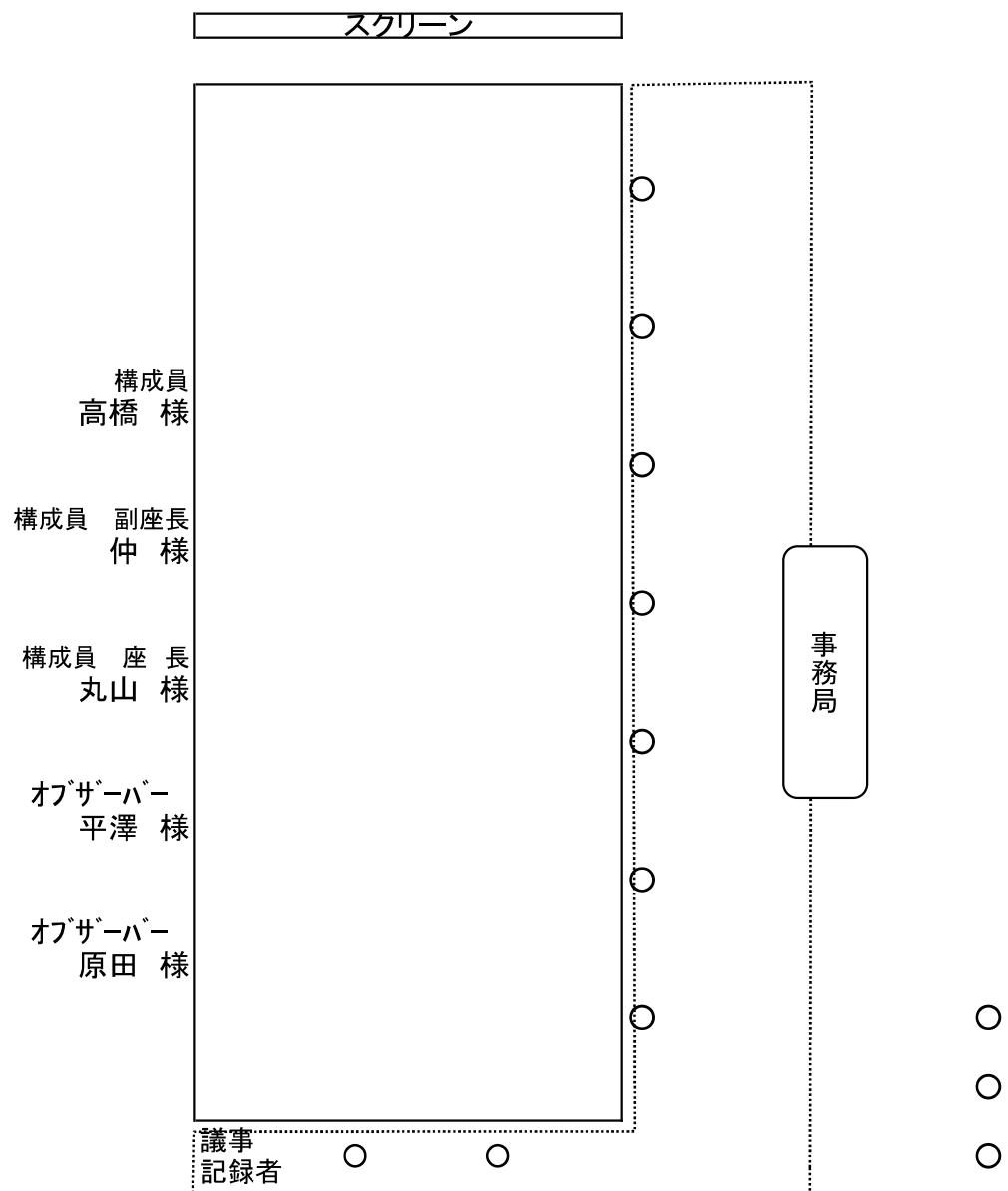
■構成員

氏名	所属	備考
丸山 宏	名城大学名誉教授	座長
仲 隆裕	京都芸術大学教授	副座長
高橋 知奈津	奈良文化財研究所 文化遺産部遺跡研究室 室長	

■オブザーバー

氏名	所属	備考
平澤 豊	文化庁文化財第二課主任文化財調査官	
原田 早季子	愛知県県民文化局文化部 文化芸術課文化財室 技師	

庭園部会 第42回 座席表



1 名勝名古屋城二之丸庭園植栽管理方針（案）

第1章 経緯及び目的

名古屋城内の植物については、国指定天然記念物「名古屋城のカヤ」のほか、築城時から現在に至るまで多くの樹木が植栽され、城内の四季それぞれの風景に潤いを与えていている。春の桜や秋のモミジは特徴的な景観を形成しており、とくに桜は市内有数の名所として、市民や観光客に愛されている。2018年に策定された「特別史跡名古屋城跡保存活用計画」（以下、保存活用計画）では、植栽について「城跡としての風致を維持するため城跡全体の植栽管理方針を定める必要がある」との方向性が示され、2025年3月に「名古屋城植栽管理計画」（以下、植栽管理計画）が策定された。ただし、図1-1に示す名勝範囲内は、植栽管理計画においては、「名勝名古屋城二之丸庭園整備計画書」（以下、整備計画書）に基づいた整備を行うため、計画の対象外とされている。よって、本方針では図1-1に示す名勝範囲を対象として、整備の進捗に合わせた植栽管理の方向性を示すことを目的とする。

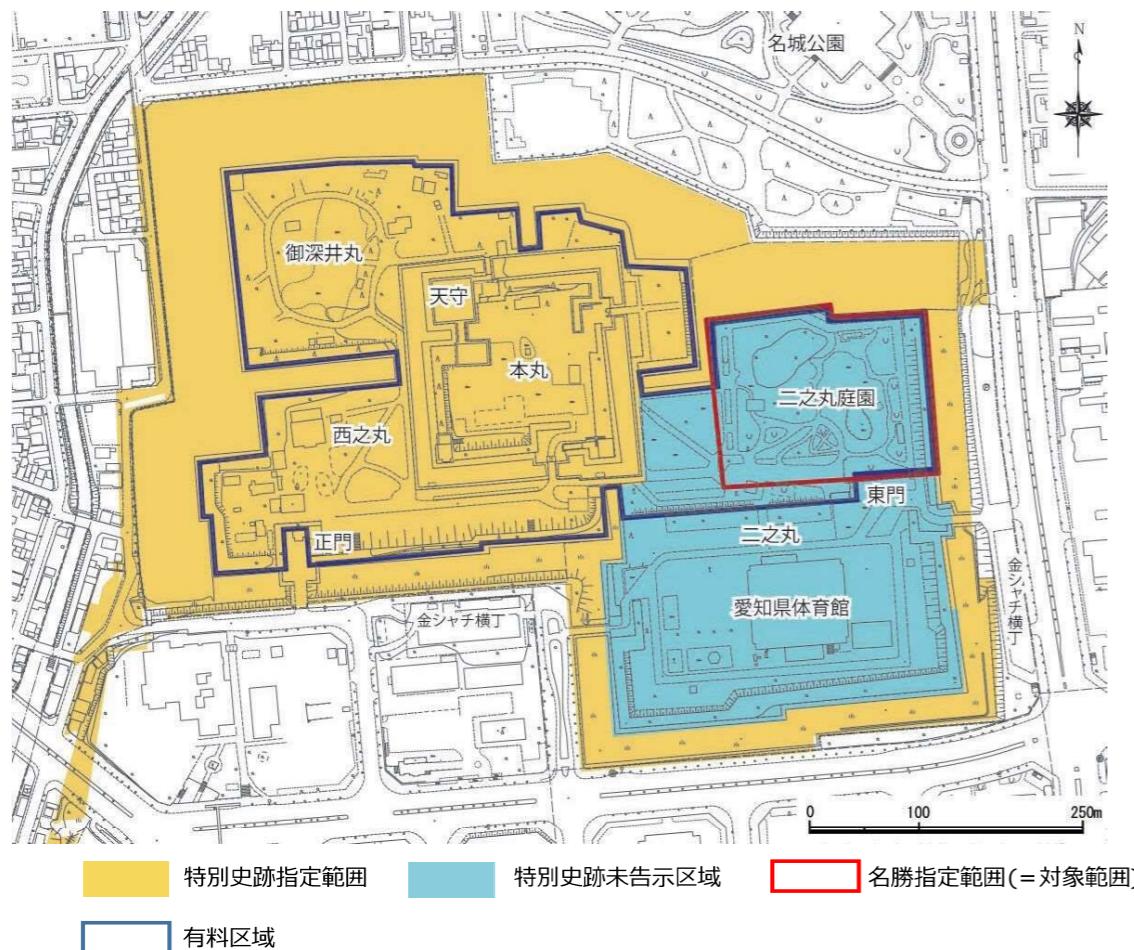


図1-1計画対象範囲図（名古屋城跡周辺図）

第2章 名勝範囲における植栽管理の理念

名古屋城植栽管理計画では、「特別史跡に相応しい風致に維持・向上させ、誰もが集いたくなる名古屋城を将来に渡って実現する」としている。

名勝範囲においてもこの理念を基本としつつ、特別史跡名古屋城跡保存活用計画では「時代とともに育んできた庭園文化を伝える場」として位置付けており、適切に植栽管理を行うことで、整備計画の基本的な考え方である御城御庭絵図等に描かれた空間性の回復を目指す。

植栽管理計画における理念 植栽管理の理念

特別史跡に相応しい風致に維持・向上させるとともに、
観光地及び都市公園としての魅力を向上させることで、
誰もが集いたくなる名古屋城を将来にわたって実現する

- 特別史跡として、文化財の保護を念頭に置いた植栽管理を行う。
- 名古屋市の代表的な観光施設として、来場者の安全性を確保した植栽管理を行う。
- 名古屋城内外からの歴史的建造物等への見通しを考慮し、景観の維持向上を目指した植栽管理を行う。
- 市民や来場者に親しまれている樹木により、名古屋城の活用を踏まえた植栽管理を行う。

名勝範囲においては、上記の理念を基本として下記についても考慮する

- 御城御庭絵図等の絵図にある空間性を回復することを目指すとともに、整備の進捗に合わせた植栽管理を行う

第3章 名勝二之丸庭園における植栽の現況

3-1 既存樹木の現状

名古屋城植栽管理計画では、二之丸（北）は、胸高直径15~25cmの比較的小さな樹木の割合が多い。



※注:直径階区分は0cm以上、5cm未満(以下、同様)の区分で示している。100cmまでは5cm間隔で、100cm以上は10cm間隔で示している。

3-2 ニ之丸庭園の既存樹木の状態

3-2-1 植栽管理計画における調査結果

調査では、文化財（石垣、南蛮練堀等）の端部から幹の中心までが3mの範囲にある高木を文化財に近接している樹木として対象とした。また同様に、枯損木や半枯れ木などの来場者への安全性が懸念される樹木、園路や建築物上の枯れ枝、園路の不陸を生じさせている樹木等についても調査した。結果は以下の通りである。

（1）文化財に近接している樹木

構成要素	枯損している樹木（本）	文化財上部に傾倒しているもしくは枝が覆いかぶさっている樹木（本）
石垣	56	55
南蛮練堀	10	7
井戸	12	0
計	78	66

（2）来場者への安全性が懸念される樹木

ア 枯損木・半枯れ木の数量

高木・中木（本）	低木		
	玉物（株）	寄植え（m ² ）	生垣（m）
176	10	349.1	44.2

イ 園路や建築物上の枯れ枝、園路の不陸を生じさせている樹木

枯れた大枝が園路・建築物上のかかっている樹木（本）	園路及び園路近傍に不陸を生じさせている樹木（本）
20	14

3-2-2 ニ之丸庭園整備計画における現況植栽の課題等

整備計画書では、現況樹木に関する課題として下記のとおり記載がある。

- ・石垣の上や南蛮練堀、石組、護岸等の近くで大木に成長している樹木があるため、除伐等の検討が必要である。
- ・現状の樹木は、近代以降の整備で植栽されたものと考えられ、実生木を含めて大木に育ったものも増えていることから、除伐等の検討を進める必要がある。
- ・御城御庭絵図等からは、植栽としてサクラ、モミジ及び常緑広葉樹を中心としマツが点在している状況が読み取れるため、これらの樹木の生育を考慮することが必要である。
- ・市民団体より寄付を受けたツバキが群植されており、事前に協議を進めたうえでの移植検討等が必要である。

3-2-3 ニ之丸庭園の風致に影響のある樹木

植栽管理計画や整備計画において明記はないが、ニ之丸庭園には石組や護岸に影響を与えている樹木や大木化して他の樹木の生育等に影響を与えていたりする樹木がある。ニ之丸庭園の風致を維持するために、これらの樹木については除伐する必要がある。また、現在は大木ではないが、サクラやモミジ等と競合しそれらの生育阻害を成り得る樹木も除伐が望ましい。

名勝庭園としての風致の維持に影響している樹木

石組や護岸に影響している樹木（本）	大木化して他の樹木の生育を阻害している樹木（本）	他の樹木と生育競合が起こっている樹木（本）
4	7	5

第4章 名勝ニ之丸庭園における植栽管理の課題と方針

4-1 植栽管理についての課題

- ・植栽管理計画で指摘されているとおり、ニ之丸庭園は名古屋城内でも比較的植栽の数量が多く、安全性が懸念される樹木も多い地区であり、来場者の通行も多いエリアであることから、来場者の利用状況や文化財等への影響等を鑑みる必要がある。
- ・整備計画書に記載されているとおり、石垣や南蛮練堀の近くで大木に成長している樹木等も多く、名勝庭園として重要な要素である石組や護岸に影響している樹木があることや、大木化して他の樹木の生育を阻害している樹木があることから早急に対応する必要がある。
- ・一度に事業化を進めるには樹木本数が多すぎることが懸念される。

4-2 実施方針

- 以下の項目を設定し、優先度の高いものから実施するものとする。
- ・枯損木や病害虫の影響等を受けて半枯れとなった樹木は早急に除伐を行う。
 - ・来場者への安全性が懸念される樹木は、来場者が通行する園路付近を優先して伐採や剪定を行う。
 - ・石組や護岸に影響のある樹木については、名勝庭園としての風致を維持する必要があることから除伐を検討する。
 - ・石垣、南蛮練堀等の文化財に影響を及ぼす可能性がある樹木の除伐を行うよう検討する。
 - ・大木化して他の樹木の生育に影響を及ぼしている樹木や他の樹木との生育競合している樹木については、名勝庭園としての風致を維持するために除伐を検討する。
 - ・市民団体等から寄付を受けた樹木については、移植の検討を行う。
 - ・今後、整備の進捗に合わせて主要な視点場から見た風景を整えるための除伐や剪定を行うことを検討する。

樹木管理平面図 縮尺1/500

5 植栽の修復整備について

現在整備を行っている、北園池を中心とした旧名勝区域を主として、右の表に基づいて、枯損木や石組を破損する恐れがある樹木を優先に、3か年計画で除伐を実施する。

除伐樹木一覧					
優先順位	樹種名	樹高m	幹周m	枝張m	要因
1	モミジ	13.0	1.7	10.0	枯損木
2	イヌマキ	5.0	0.5	1.5	枯損木
3	クロガネモチ	4.5	0.7	2.2	石組破損
4	ムクノキ	10.0	1.8	7.0	石組破損
5	クロガネモチ	10.0	1.2	0.4	石組破損
6	クスノキ	15.0	2.4	18.0	他樹木生育阻害
7	クロガネモチ	7.5	0.8	8.0	他樹木生育阻害
8	クロガネモチ	5.5	0.6	3.5	他樹木生育阻害
9	クロガネモチ	7.0	0.6	4.0	他樹木生育阻害
10	クロガネモチ	7.5	1.4	7.0	他樹木生育阻害
11	クスノキ	16.0	1.8	12.0	他樹木生育阻害
12	ムクノキ	11.0	1.9	10.0	他樹木生育阻害
13	クロガネモチ	9.5	1.0	6.0	他樹木生育阻害
14	クロガネモチ	5.0	0.7	4.0	生育競合
15	ヒノキ	9.5	0.5	2.0	生育競合
16	ラカンマキ	3.5	0.4	1.0	生育競合
17	ラカンマキ	3.5	0.5	2.5	生育競合
18	イヌマキ	4.5	0.4	1.5	生育競合
19	イヌマキ	3.8	0.4	1.5	生育競合



図1 除伐対象樹木位置図

樹木管理平面図 縮尺1/500

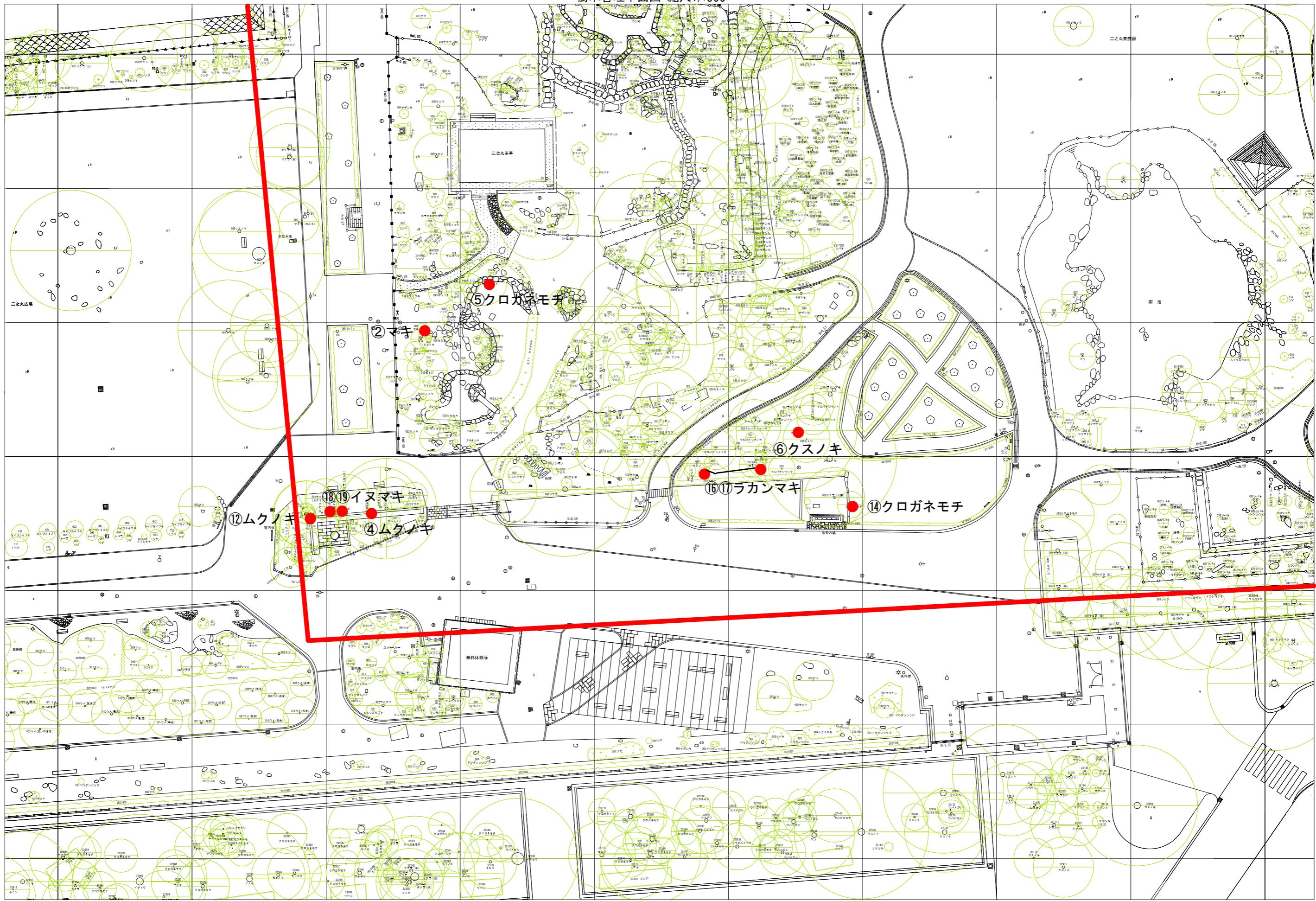


図2 除伐対象樹木位置図

樹木管理平面図 縮尺1/500



図3 除伐対象樹木位置図

樹木管理平面図 縮尺1/500

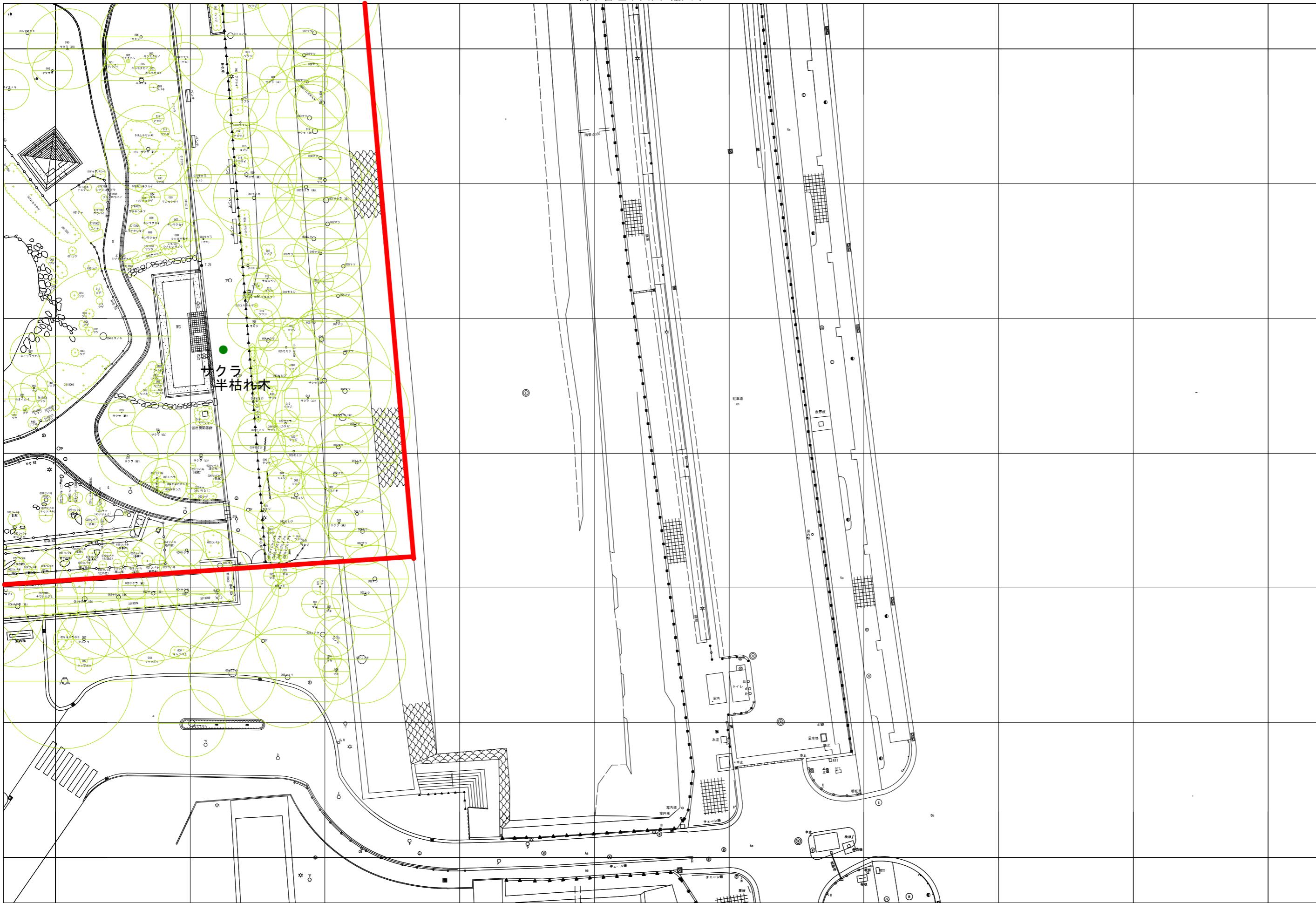
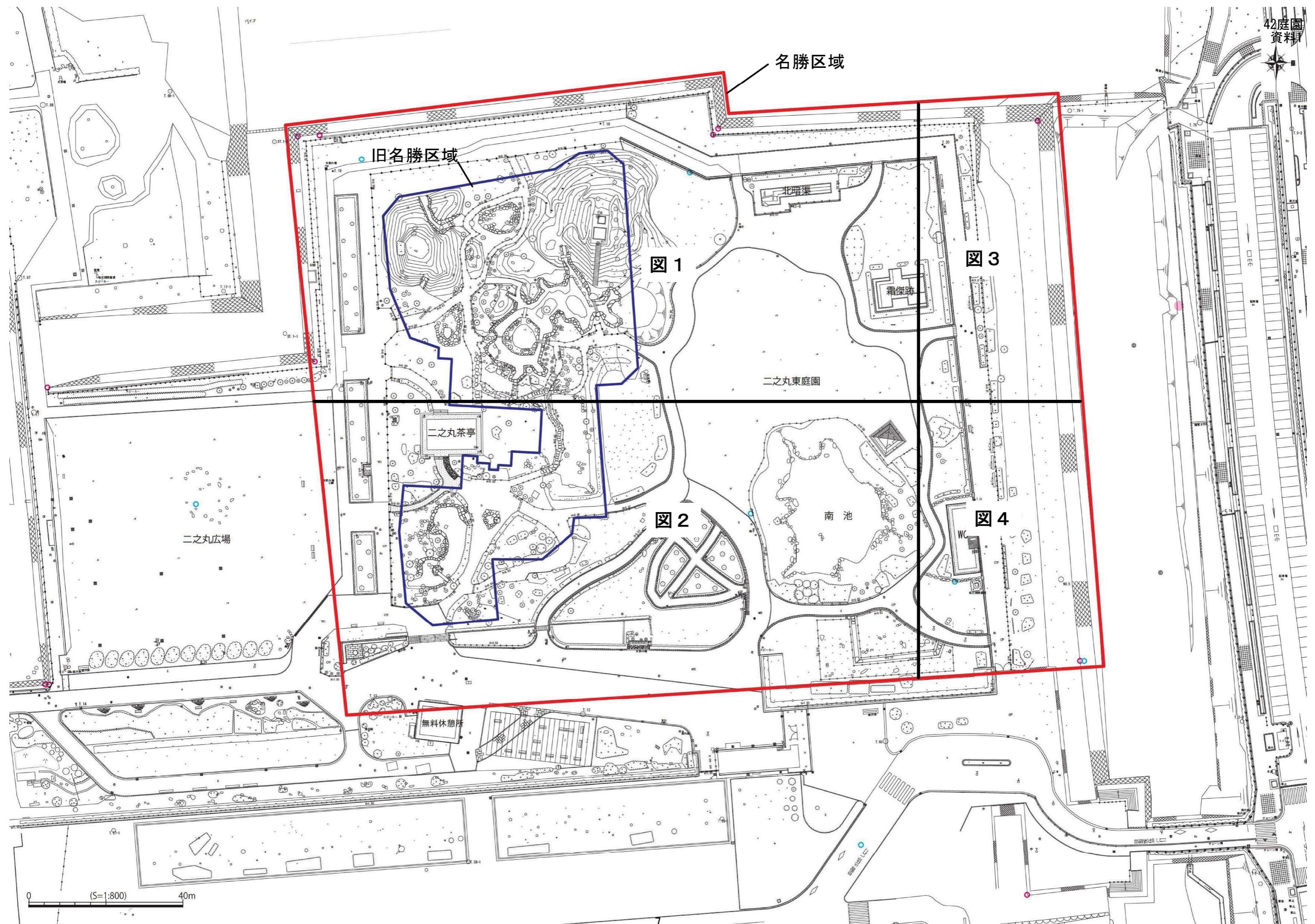
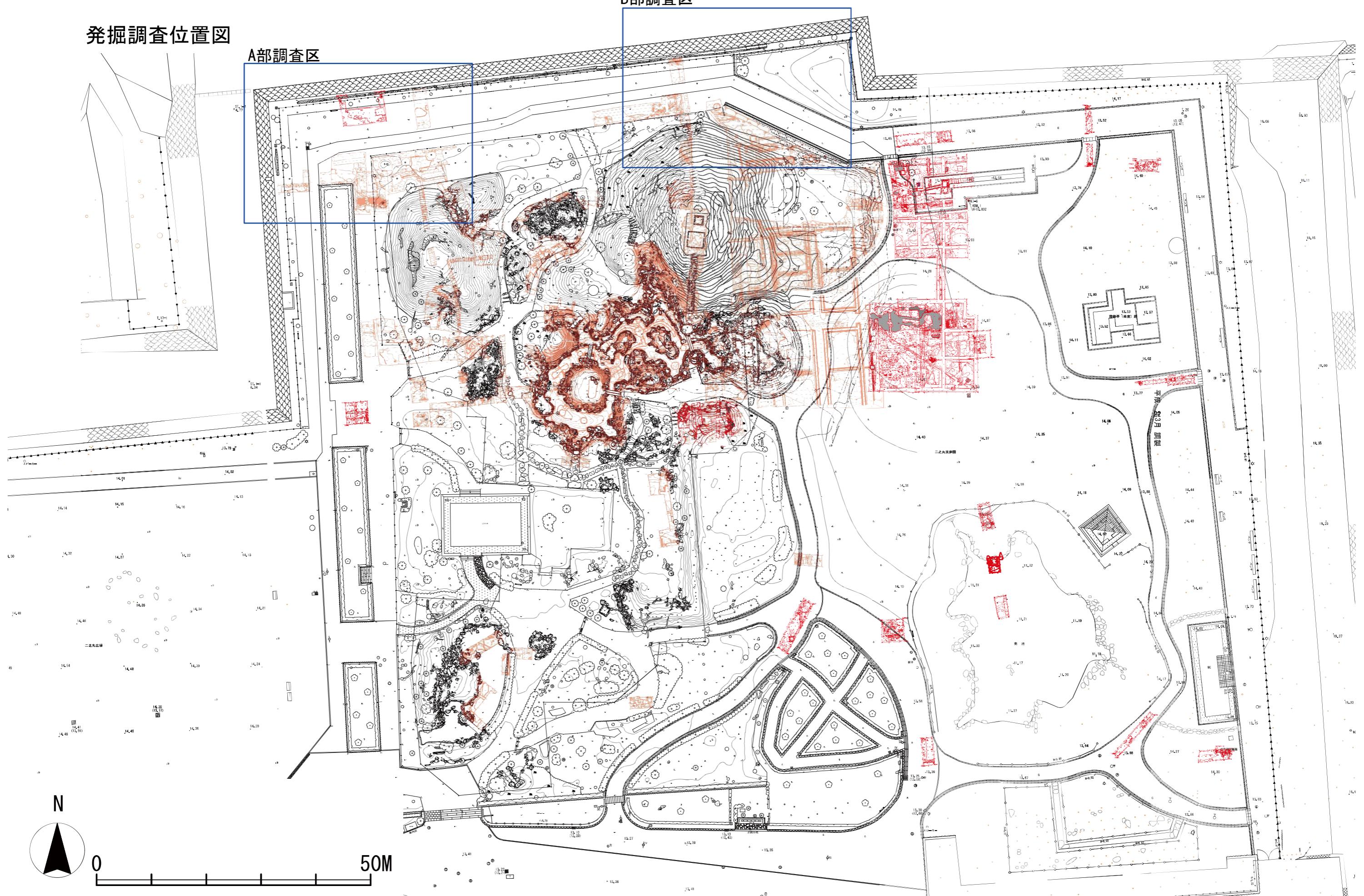


図4 除伐対象樹木位置図

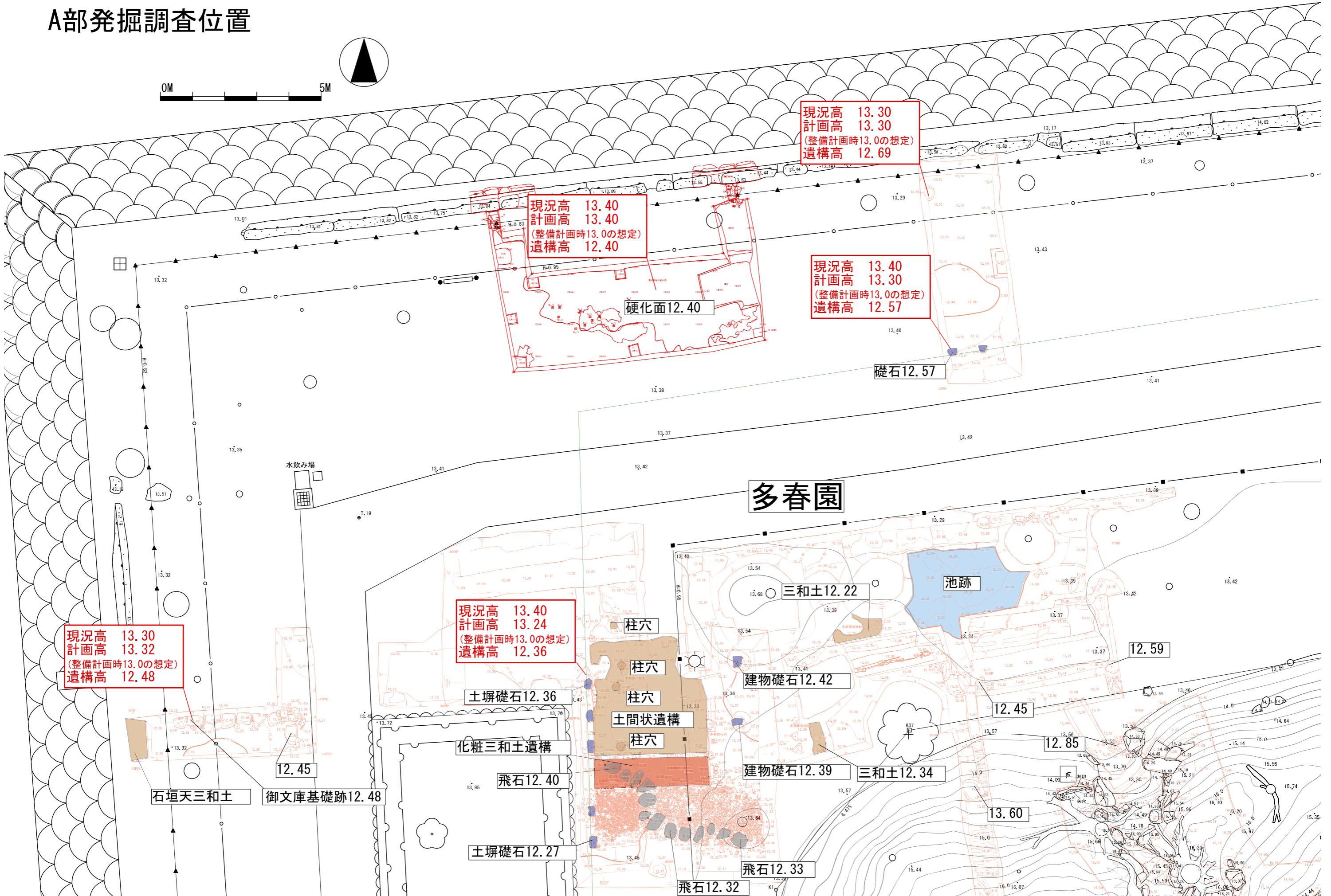


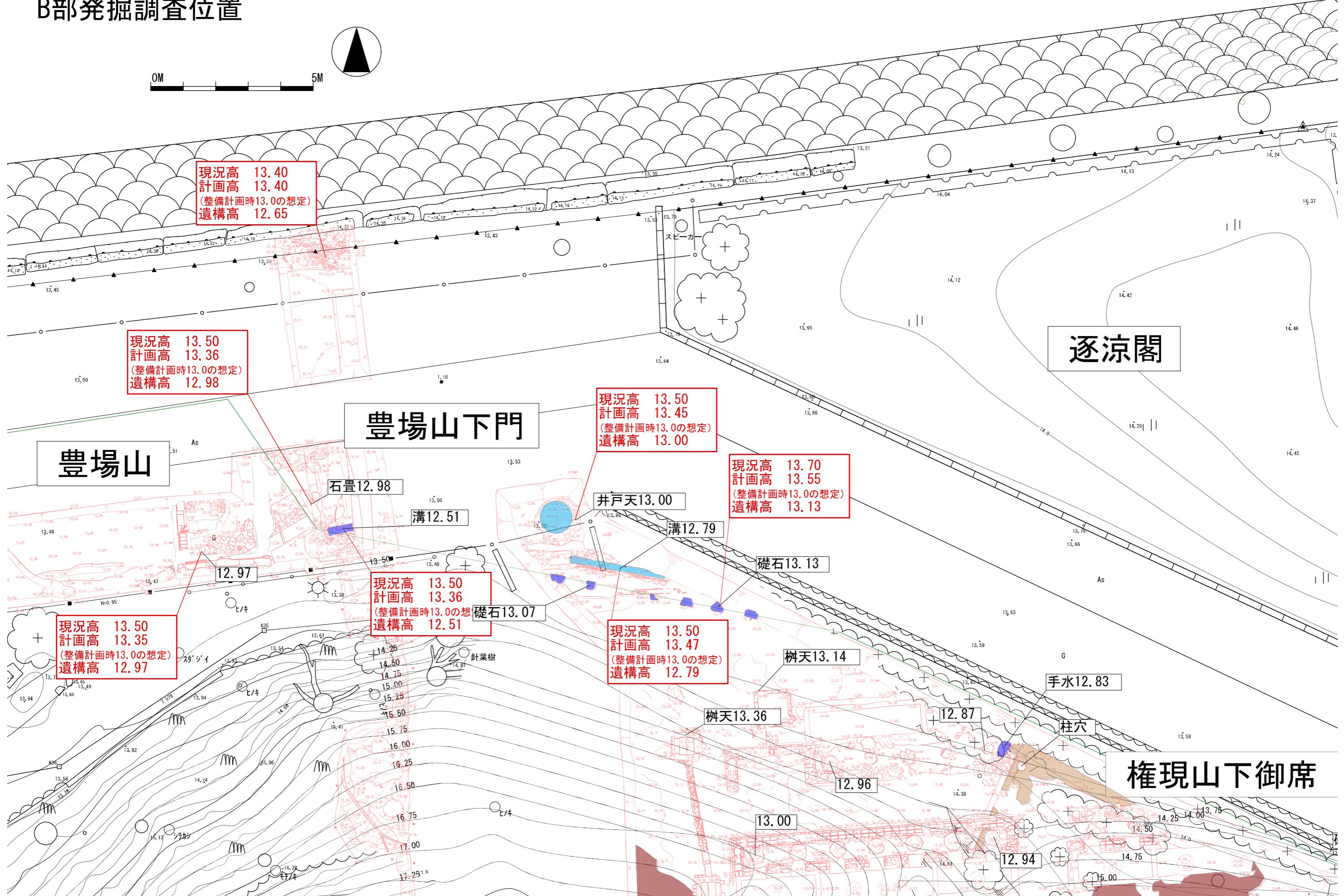
2 排水計画について

発掘調査位置図



A部発掘調査位置





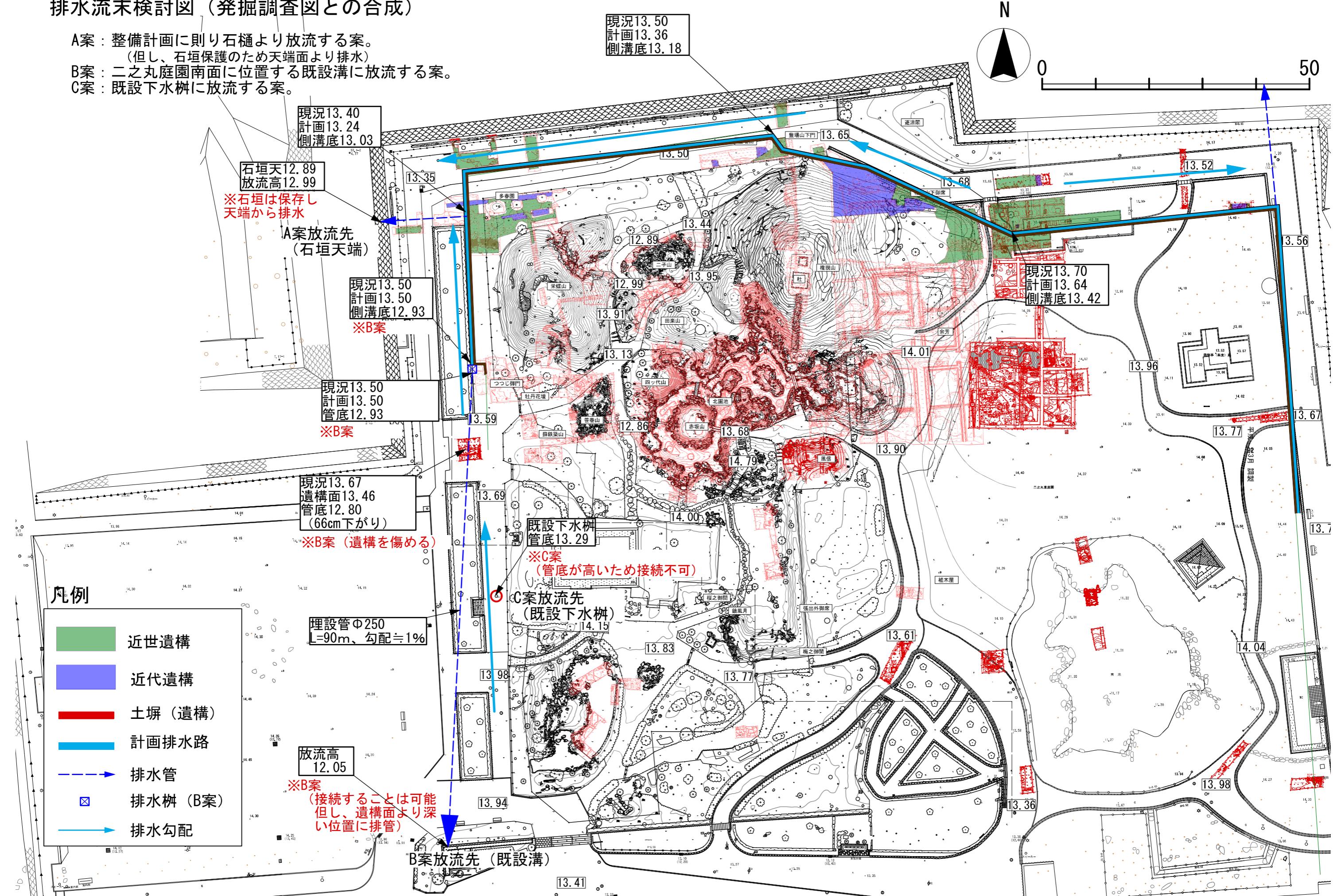
排水水流末検討図（発掘調査図との合成）

A案：整備計画に則り石垣より放流する案。

（但し、石垣保護のため天端面より排水）

B案：二之丸庭園南面に位置する既設溝に放流する案。

C案：既設下水溝に放流する案。



二の丸庭園雨水排水A・C流域高さ検討図



3 余芳周辺の六角型燈籠について

(1) 概要

余芳周辺には、飛石が打たれている園路の内側において余芳の北側と東側、南側の3箇所に六角型燈籠が確認できる。以下に『御城御庭絵図』と『尾二ノ丸御庭之図』を示す。六角型燈籠-1は、枝折戸-1及び枝折戸-2の内側、余芳の北西近傍に立地する。また、景石が近傍に描かれている。

六角型燈籠-2は、袖垣-2の南側、四角型燈籠の東側、余芳の南東に立地する。また、景石が近傍に描かれている。

六角型燈籠-3は、枝折戸-3、余芳の南側、高木植栽に囲まれた園路際に立地する。

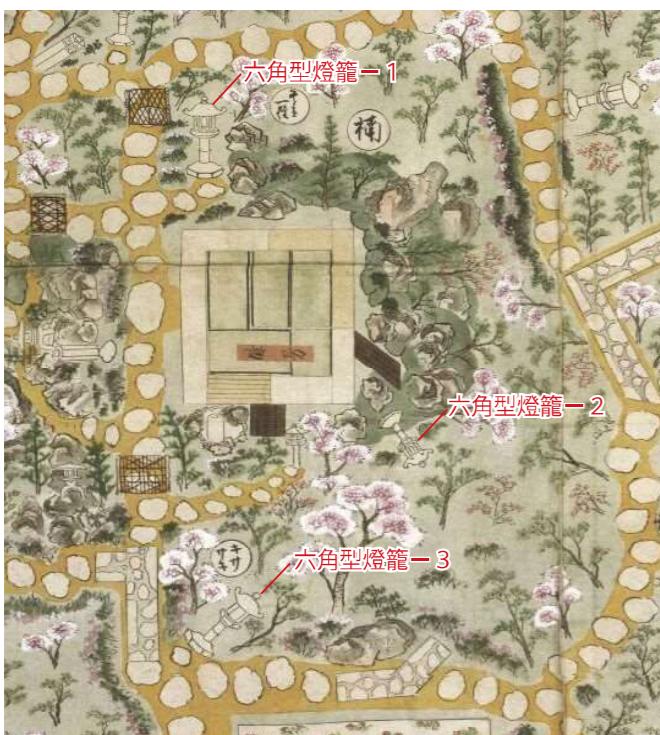


図3-1 余芳周辺の六角型燈籠
『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

図3-2 余芳周辺の六角型燈籠
『尾二ノ丸御庭之図』部分（徳川美術館所蔵）

(2) 六角型燈籠-1

『御城御庭絵図』と『尾二ノ丸御庭之図』を比較し、六角型燈籠-1の検証結果を下表のにまとめると、概ね同様の形で設置箇所も同様な描き方をされている。

表3-1 六角型燈籠-1における御城御庭絵図と尾二ノ丸御庭之図との検証結果

事項	部位	御城御庭絵図	尾二ノ丸御庭之図
六角型燈籠-1	概形	大ぶりに描かれる。	大ぶりに描かれる。
	宝珠	球状で先が尖った表現。	球状の表現。
	請花	宝珠より小さく、2段で描かれる。	請花は描かれるが不鮮明である。
	笠	六角形で全体にムクリがつき、蕨手が描かれる。	全体にムクリがつき、蕨手と降り棟が描かれる。
	火袋	六角形の表現。正面から三面見え、正面の火口は縦長の長方形に描かれる。側面は直線が描かれる。	六角形の表現。正面から三面見え、火口は縦長の長方形に描かれる。
	中台	六角形だがやや丸みを帯びた表現。竿に載っている部分の形状が鮮明に描かれる。	同左
	竿	円柱形の柱で、中央に節が描かれる。	同左
	基礎	六角形で基礎の中央部が盛り上がりしている表現。	基礎の中央部が盛り上がっている表現。御城御庭絵図と比較して丸みを帯びた表現である。

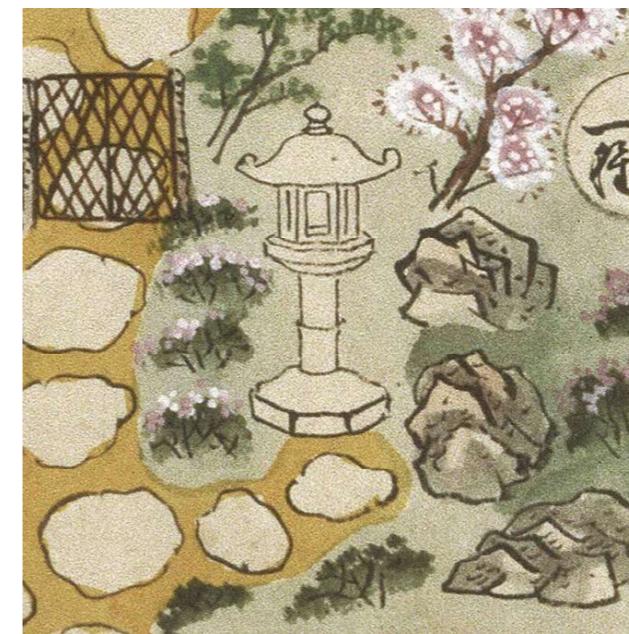


図3-3 六角型燈籠-1『御城御庭絵図』部分
(名古屋市蓬左文庫所蔵)

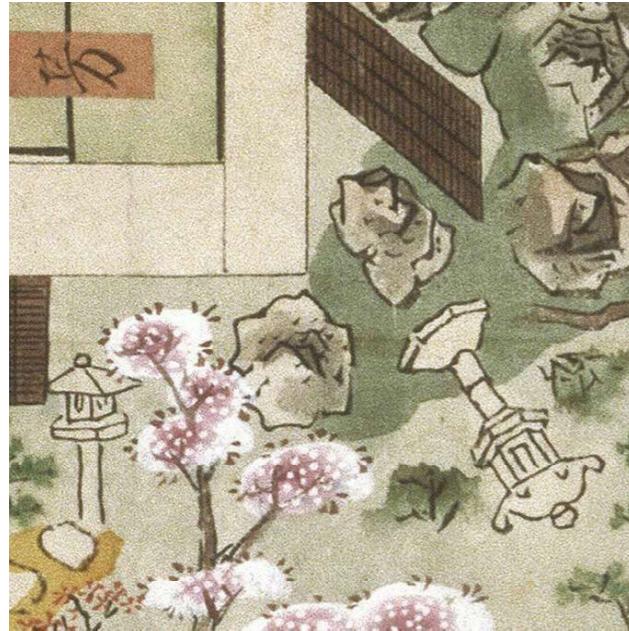
図3-4 六角型燈籠-1『尾二ノ丸御庭之図』部分（徳川美術館所蔵）

(3) 六角型燈籠-2

『御城御庭絵図』と『尾二ノ丸御庭之図』を比較し、六角型燈籠-2の検証結果を下表のにまとめると、各部位は概ね同様の形で設置箇所も同様な描き方をされているが、大きさは近傍の四角型燈籠との比較をしても『尾二ノ丸御庭之図』のほうが大きく描かれる。

表3-2 六角型燈籠-2における御城御庭絵図と尾二ノ丸御庭之図との検証結果

事項	部位	御城御庭絵図	尾二ノ丸御庭之図
六角型燈籠-2	概形	中程度の大きさで、六角型燈籠-1, -3より小さく描かれる。	大ぶりに描かれる。
	宝珠	球状で先が尖った表現。	同左
	請花	宝珠より小さく、1段で描かれる。	請花は描かれるが不鮮明である。
	笠	六角形で全体にムクリがつき、蕨手が描かれる。	全体にムクリがつき、蕨手と降り棟が描かれる。
	火袋	六角形の表現。正面から三面見え、正面の火口は縦長の長方形に描かれる。側面の火口は描かれない。	六角形の表現。正面から三面見え、火口は縦長の長方形に描かれる。
	中台	六角形の表現。竿に載っている部分の形状が鮮明に描かれる。	御城御庭絵図と比較して丸みを帯びた表現である。
	竿	円柱形の柱で、中央に節が描かれているが不鮮明である。御城御庭絵図と比較して細長く描かれる。	円柱形の柱で、中央に節が描かれているが不鮮明である。御城御庭絵図と比較して細長く描かれる。
	基礎	六角形で基礎の中央部が盛り上がっている表現。	基礎の中央部が盛り上がっている表現。御城御庭絵図と比較して丸みを帯びた表現である。

図3-5 六角型燈籠-2『御城御庭絵図』部分
(名古屋市蓬左文庫所蔵)図3-6 六角型燈籠-2『尾二ノ丸御庭之図』
部分 (徳川美術館所蔵)

(4) 六角型燈籠-3

『御城御庭絵図』と『尾二ノ丸御庭之図』を比較し、六角型燈籠-3の検証結果を下表のにまとめると、概ね同様の形で設置箇所も同様な描き方をされている。

表3-3 六角型燈籠-3における御城御庭絵図と尾二ノ丸御庭之図との検証結果

事項	部位	御城御庭絵図	尾二ノ丸御庭之図
六角型燈籠-3	概形	大ぶりに描かれる。	中程度の大きさで、六角型燈籠-2より小さく描かれる。
	宝珠	球状で先が尖った表現。	同左
	請花	宝珠より小さく、1段で描かれる。	同左
	笠	六角形で全体にムクリがつき、蕨手と降り棟が描かれる。	全体にムクリがつき、蕨手と降り棟が描かれる。
	火袋	六角形の表現。正面から三面見え、正面の火口は縦長の長方形に描かれない。	六角形の表現。正面から三面見え、火口は縦長の長方形に描かれる。
	中台	六角形の表現。竿に載っている部分の形状が鮮明に描かれる。	御城御庭絵図と比較して丸みを帯びた表現である。
	竿	円柱形の柱で、中央に節が描かれる。	同左
	基礎	六角形で基礎の中央部が盛り上がっている表現。	基礎の中央部が盛り上がっている表現。御城御庭絵図と比較して丸みを帯びた表現である。

図3-7 六角型燈籠-3『御城御庭絵図』部分
(名古屋市蓬左文庫所蔵)図3-8 六角型燈籠-3『尾二ノ丸御庭之図』
部分 (徳川美術館所蔵)

(5) 六角型燈籠の絵図における構造の検証

御城御庭絵図には126基の六角型燈籠が描かれるが、それらについて大きさ及び形状について下記の通り検証した。

ア 大きさ

六角型燈籠の高さにより、大きさを概ね3つに分類すると、高さが4cm以上のが30基、3~4cmのものが81基、3cm以下のが15基、認められる。(図3-9~11)

イ 部材の表現

(ア) 宝珠：概ね同様な描き方であるが、火口を描いているものが1基認められる。

(図3-12)

(イ) 請花：概ね同様な描き方(1段で宝珠より小さい)で描かれるが2段描かれるもの(図3-12, 19)、細長く描かれるもの(図4-13)もある。

(ウ) 笠：概ね同様な描き方(蕨手2個、降り棟なし)であるが、蕨手が4個のものや降り棟が描かれるものもある。(図3-13)

(エ) 火袋：概ね同様な描き方(火口なし)であるが、火口が描かれているものもある。(図3-12, 13)

(オ) 中台：概ね同様な描き方(六角形)であるが、丸みを帯びて描かれるものもある。(図3-15)

(カ) 竿：概ね同様な描き方(中央に節を1本の線で描かれる)であるが、節を2本の線で描かれるものもある。(図3-16)

(キ) 基礎：概ね同様な描き方(反花、線なし)であるが、反花や線が描かれるものもある。(図3-17, 18)

ウ 六角型燈籠-1, -2, -3の特徴

ア、イの観点から六角型燈籠-1, -2, -3の特徴を検証した。(図3-19~21)

表3-4 六角型燈籠-1, -2, -3の御城御庭絵図における特徴

事項	六角型燈籠-1	六角型燈籠-2	六角型燈籠-3
大きさ	大	中	大
宝珠	球状で先が尖った表現。	同左	同左
請花	宝珠より小さく、2段で描かれる。	宝珠より小さく、1段で描かれる。	同左
笠	六角形で全体にムクリがつき、蕨手が2個描かれる。降り棟は描かれない。	六角形で全体にムクリがつき、蕨手が4個描かれる。降り棟は描かれない。	六角形で全体にムクリがつき、蕨手が2個描かれる。降り棟は描かれない。
火袋	六角形の表現。正面から三面見え、正面の火口は縦長の長方形に描かれる。側面は直線が描かれる。	六角形の表現。正面から三面見え、正面の火口は縦長の長方形に描かれる。側面の火口は描かれない。	六角形の表現。正面から三面見え、火口は描かれない。
中台	六角形だがやや丸みを帯びた表現。	六角形の表現。	同左
竿	円柱形の柱で、中央に節が1本描かれる。	同左	同左
基礎	六角形で基礎の中央部が盛り上がっている表現。	同左	同左



図3-9 高さ4cm以上に描かれる例(参考図39)



図3-10 高さ3~4cmに描かれる例(参考図109)



図3-11 高さ3cm以下に描かれる例(参考図115)



図3-12 宝珠に火口が描かれる例(参考図16)



図3-13 笠の降り棟が描かれ、蕨手が4個描かれる例(参考図73)



図3-16 竿の節の線が2本描かれる例(参考図105)



図3-17 基礎に反花が描かれる例(参考図63)



図3-19 六角型燈籠-1
(参考図34)



図3-20 六角型燈籠-2
(参考図35)



図3-21 六角型燈籠-3
(参考図36)

図3-9~21 六角型燈籠『御城御庭絵図』部分(名古屋市蓬左文庫所蔵)

(6) 六角型燈籠の配置と構造の検討

ア 配置と構造検討の方針

配置は、御城御庭絵図における描かれ方を参考に、既設の余芳や延段、飛石、石造物及び余芳周辺の地割、石組、枝折戸や袖垣等の構造物、植栽との調和を考慮に入れ、定める。

構造については、御城御庭絵図における描かれ方を参考に、大きさは基本的に、最も典型的な「中」を6尺とし、「大」：7～8尺、「小」：5尺と想定し、形状は、絵図に描かれている特徴を持つ古材から選定する。また、名古屋城内猿面茶席周辺の六角型燈籠2基（写真4-1, 4-2）、支給品の天祥院灯籠（写真4-3, 4-4）、泰心院灯籠（写真4-3, 4-4）の寸法や形状も参考とし、余芳や建物周辺に設置する他の石造物との調和も考慮する。

イ 六角型燈籠の配置と形状の検討

(ア) 六角型燈籠-1

余芳の北西側で、枝折戸-1の南側に配置する。近傍には景石を据えるので、それらとの調和を図る。

形状については、高さ7尺程度で宝珠下の台が2段で宝珠より小さく、正面の火口が1箇所で、中台が丸みを帯びた特徴を持つ古材を候補とする。

(イ) 六角型燈籠-2

余芳の南東側で、袖垣-2の南側に配置する。近傍には今年度施工予定の四角型燈籠があり、今後景石を据える予定であるため、それらとの調和を図る。

形状については、高さ6尺程度で宝珠下の台が1段で宝珠より小さく、正面の火口が1箇所で中台が六角形の特徴を持つ古材を候補とする。

(ウ) 六角型燈籠-3

余芳の南側で、園路の交差部に配置する。周辺には、キササゲやサクラ大径木が植栽されるため、それらとの調和を図る。

形状については、高さが7尺程度、宝珠下の台が1段で宝珠より小さく、正面の火口が1箇所で中台が六角形の特徴を持つ古材を候補とする。

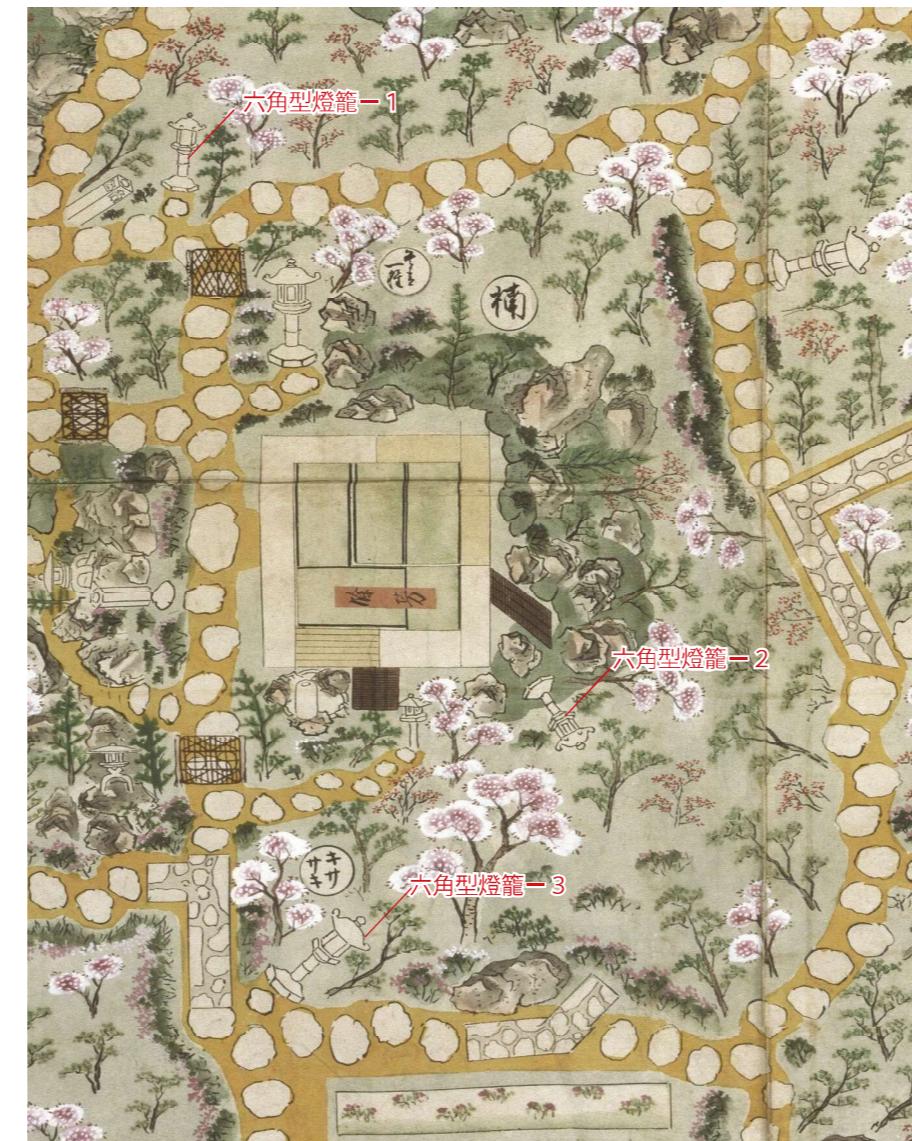


図3-22 余芳周辺の六角型燈籠
『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

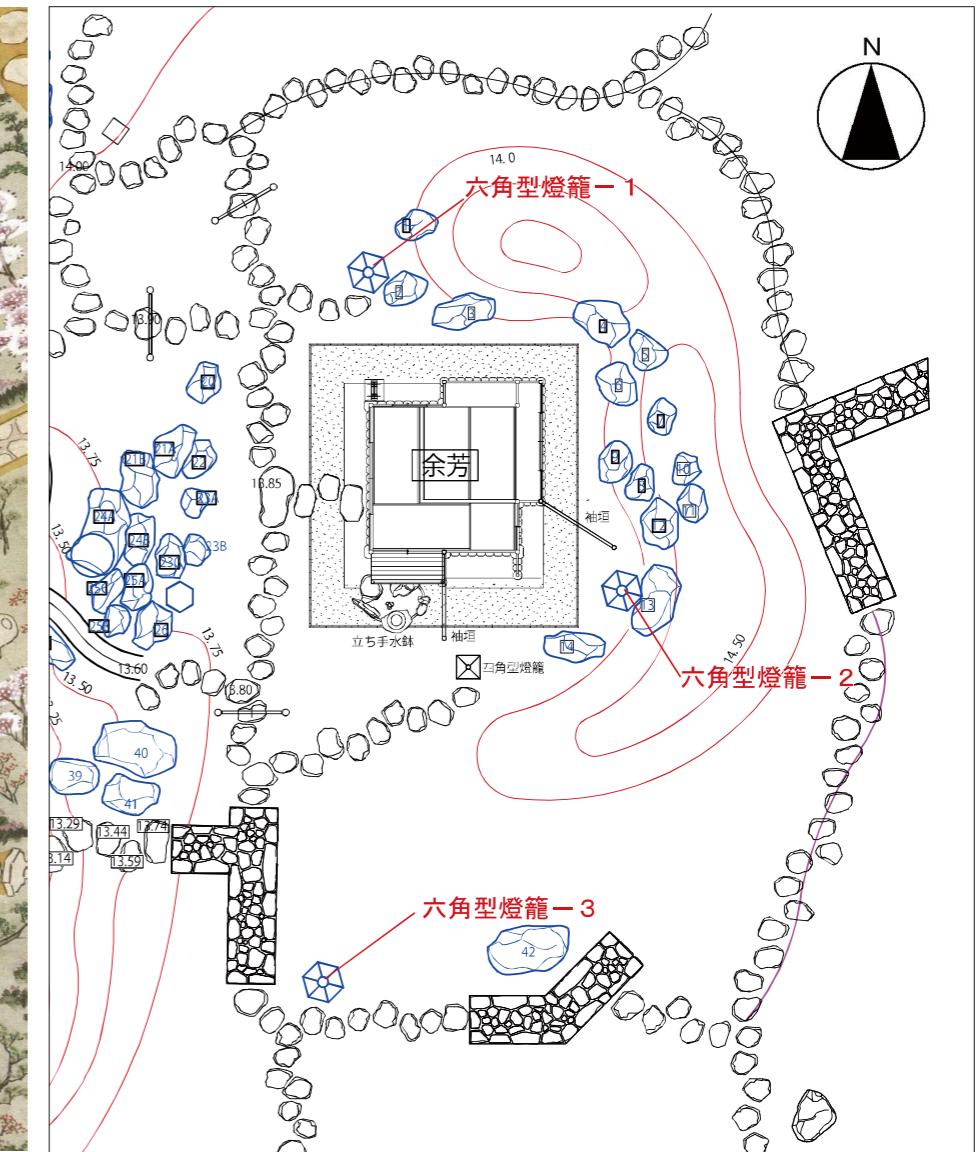


図3-23 余芳平面図 S = 1 : 150



図3-24 六角型燈籠-1
(参考図 34)



図3-25 六角型燈籠-2
(参考図 35)
(左 135 度回転)



図3-26 六角型燈籠-3
(参考図 36)
(左 45 度回転)

ウ 六角型燈籠の事例

(ア) 現存する名古屋城内の六角型燈籠

a. 猿面茶席周辺 (写真 4-1)

高さ約 210cm

b. 猿面茶席周辺 (写真 4-2)

高さ約 180cm

(イ) 名古屋市支給品 (名古屋城内保管)

a. 天祥院灯籠 (写真 4-3, 4-4, 図 4-27)

来歴: 花崗岩 高さ約 190cm

銘「天祥院殿」ほか不明瞭

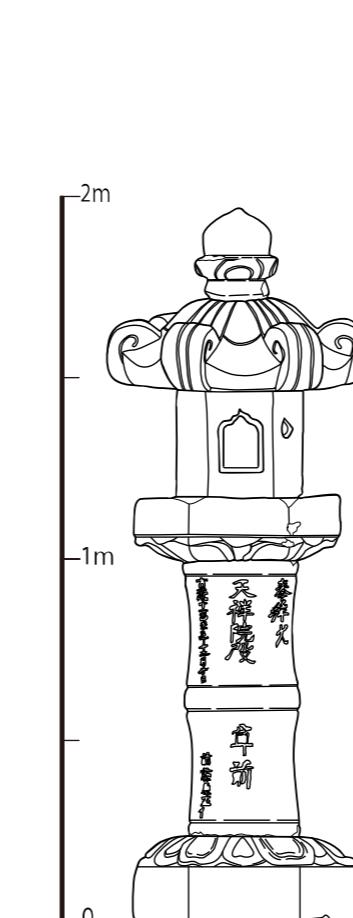
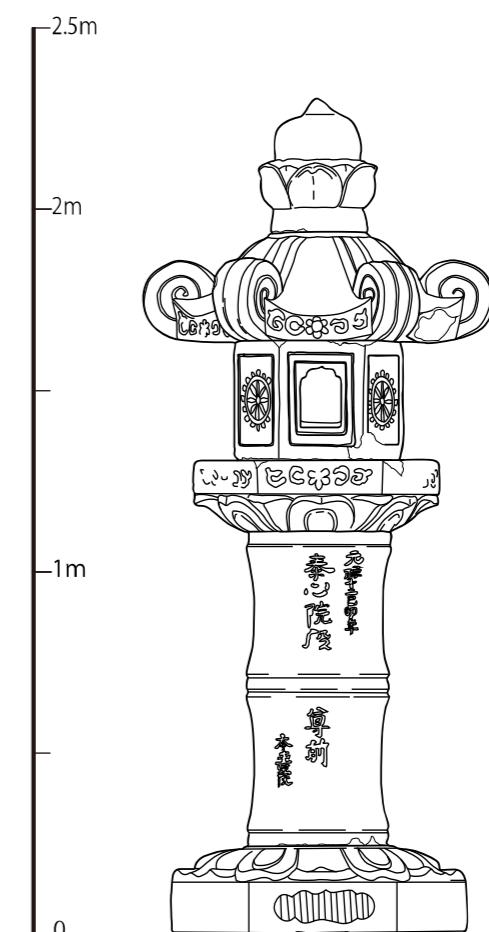
※「天祥院」は9代藩主宗睦 (むねちか) の法名。

建中寺から払い下げられたものと思われる。

b. 泰心院灯籠 (写真 4-3, 4-4, 図 4-28)

来歴: 花崗岩 高さ約 240cm

銘「泰心院殿」ほか不明瞭

写真 3-1 六角型燈籠
(名古屋城猿面茶席付近)写真 3-2 六角型燈籠
(名古屋城猿面茶席付近)写真 3-3 天祥院灯籠 (左) 泰心院灯籠 (右)
現況写真 (名古屋城内)写真 3-10 天祥院灯籠 (左) 泰心院灯籠 (右)
現況写真 (名古屋城内)天祥院灯籠 立面図 正面 S=1:20
図 3-27 天祥院灯籠 (名古屋市所蔵)泰心院灯籠 立面図 正面 S=1:20
図 3-28 泰心院灯籠 (名古屋市所蔵)

(ウ) 古材の事例 (石材店視察結果)

部位	特徴	
高さ	5尺 : 事例1 5~6尺 : 事例2, 3 6~7尺 : 事例4 7尺以上 : 事例5, 6	
宝珠	請花より大きい : 事例1, 2, 5, 6	請花と同程度 : 事例3, 4
請花	1段 : 事例1~5	2段 : 事例6
笠	ムクリが大きい : 事例1, 2, 4, 6 蕨手が大きい : 事例2, 5, 6 降り棟が明瞭 : 事例2, 6	ムクリが小さい : 事例3, 5 蕨手が小さい : 事例1, 3, 4 降り棟が不明瞭 : 事例1, 3, 4, 5
火袋	火口が大きい : 事例4, 5, 6	火口が小さい : 事例1, 2, 3
中台	六角形 : 事例1, 2, 3, 5, 6	丸みを帯びる : 事例4
竿	節が明瞭 : 事例1, 2, 4, 6	節が不明瞭 : 事例3, 5
基礎	中央部の盛り上がりが大きい : 事例3, 4, 5, 6	中央部の盛り上がりが小さい : 事例1, 2



写真3-7 六角型燈籠 古材事例3
(江戸末期 江州 5尺6寸)



写真3-8 六角型燈籠 古材事例4
(江戸末期 6尺8寸)



写真3-5 六角型燈籠 古材事例1
(江戸初期 江州 5尺)

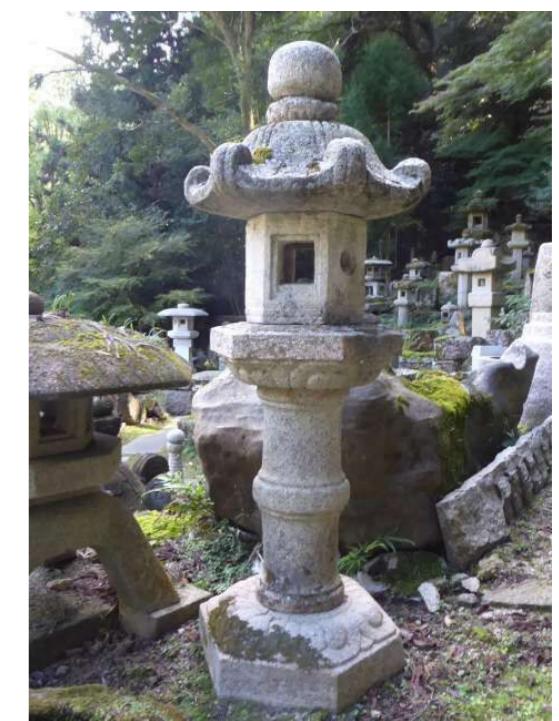


写真3-6 六角型燈籠 古材事例2
(江戸末期 白川 5尺6寸)

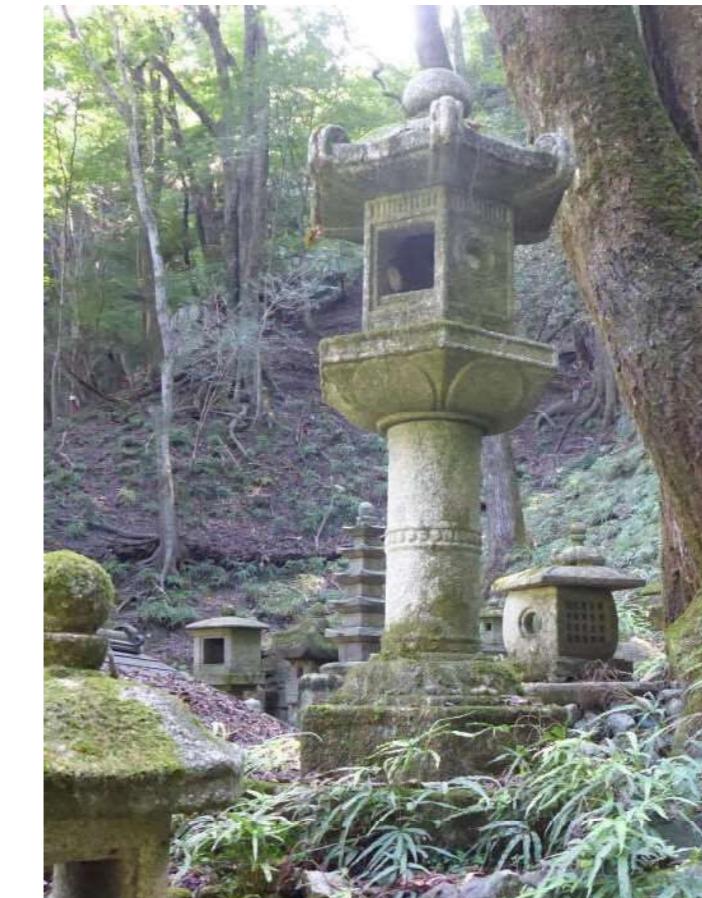
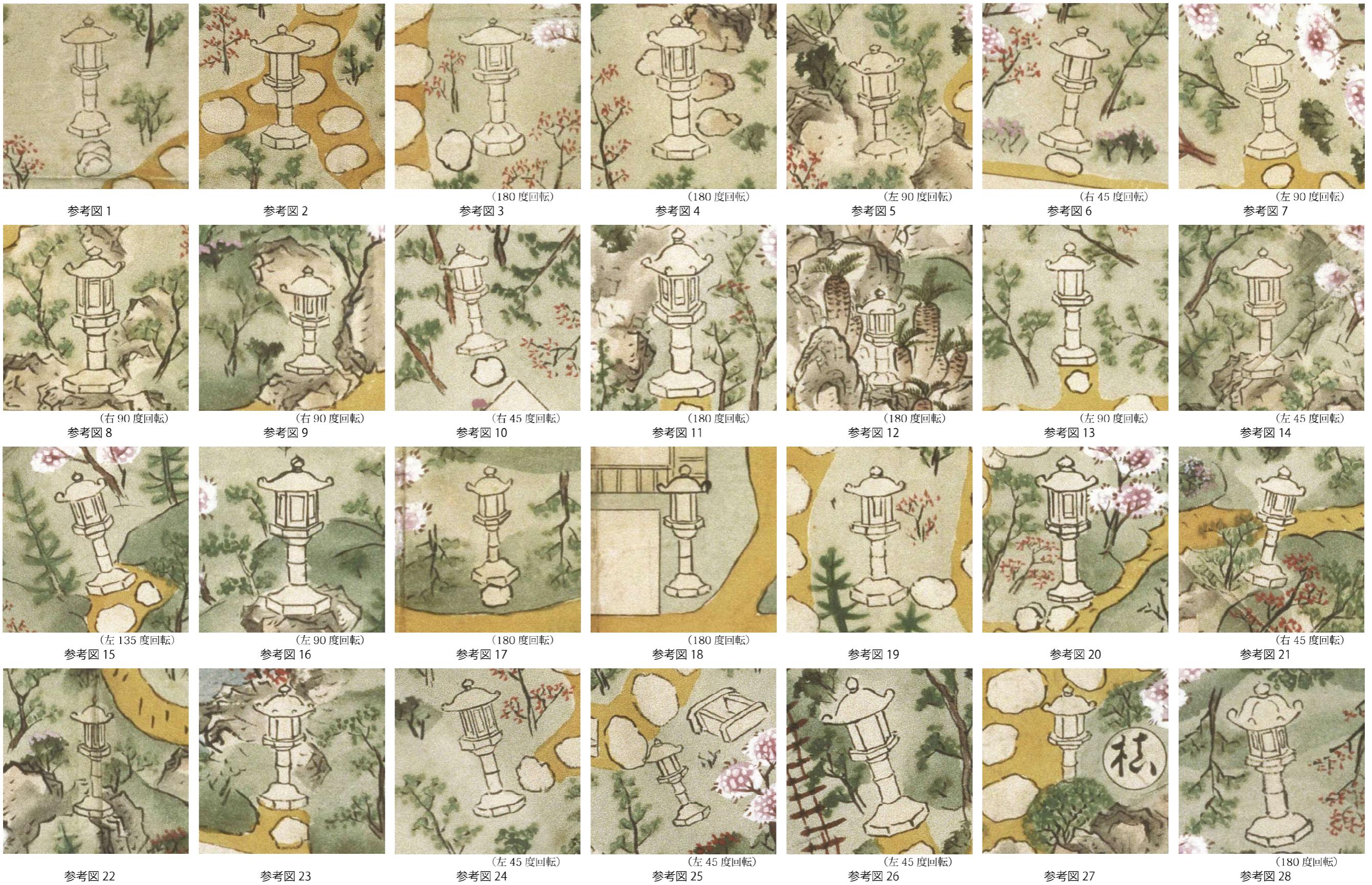


写真3-9 六角型燈籠 古材事例5
(7~8尺)



写真3-10 六角型燈籠 古材事例6
(江戸末 江州 8尺)

(参考) 御城御庭絵図に描かれている六角型燈籠-1



(参考) 御城御庭絵図に描かれている六角型燈籠ー2



参考図 29

(右 135 度回転)
参考図 30

参考図 31

(左 45 度回転)
参考図 32

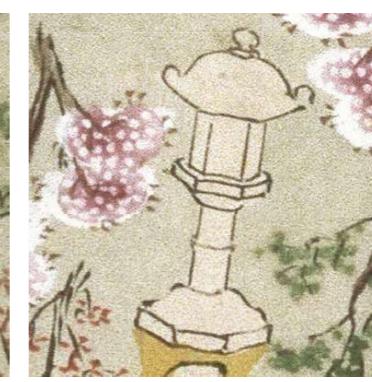
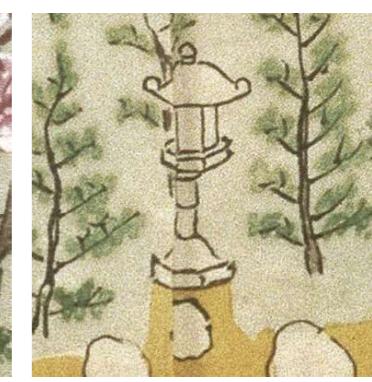
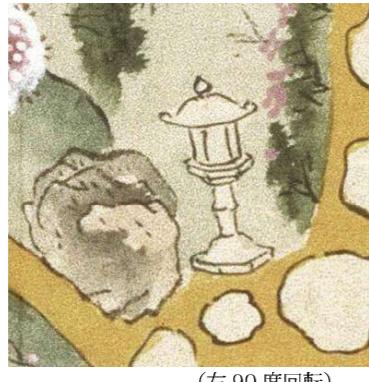
参考図 33



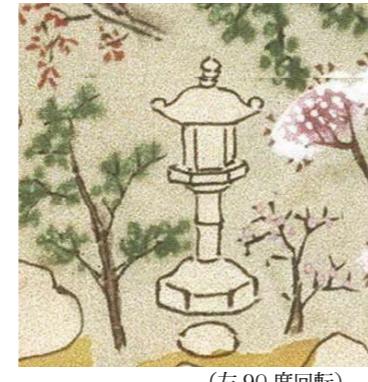
参考図 34

(左 135 度回転)
参考図 35(左 45 度回転)
参考図 36(右 90 度回転)
参考図 37(左 90 度回転)
参考図 38(左 90 度回転)
参考図 39

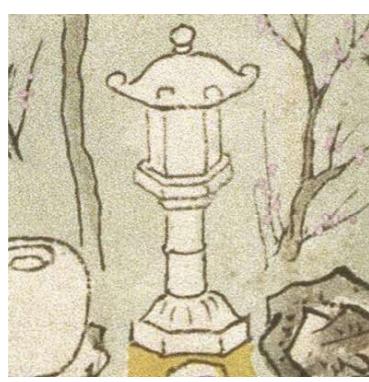
参考図 40

(180 度回転)
参考図 41(左 90 度回転)
参考図 42(左 90 度回転)
参考図 43(右 90 度回転)
参考図 44

参考図 45

(左 45 度回転)
参考図 46(右 90 度回転)
参考図 47(左 90 度回転)
参考図 48(右 90 度回転)
参考図 49

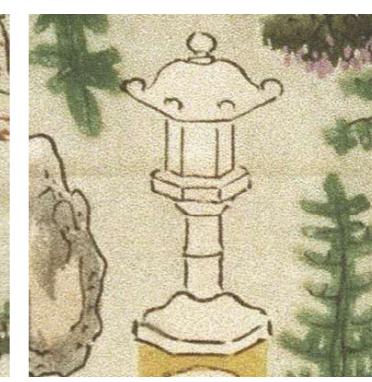
参考図 50

(右 90 度回転)
参考図 51(右 45 度回転)
参考図 52

参考図 53



参考図 54

(180 度回転)
参考図 55(左 135 度回転)
参考図 56

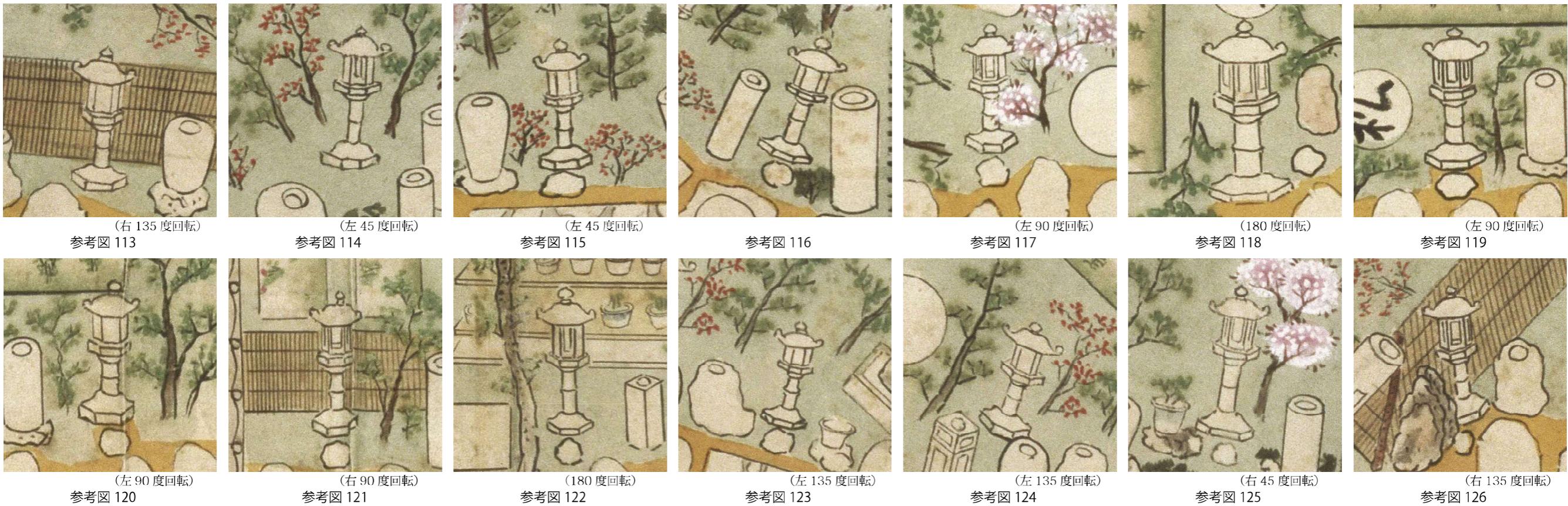
(参考) 御城御庭絵図に描かれている六角型燈籠－3



(参考) 御城御庭絵図に描かれている六角型燈籠-4



(参考) 御城御庭絵図に描かれている六角型燈籠—5



1 枝折戸の構造検討

(1) 部材

- ・扉部について、竹材はマダケとする。
- ・柱について、枝折戸-1、2は皮付き丸太（クヌギ、アベマキ等）、枝折戸-3は丸太（クヌギ、アベマキ等）とし、径は $\phi 80\text{mm}$ とする。

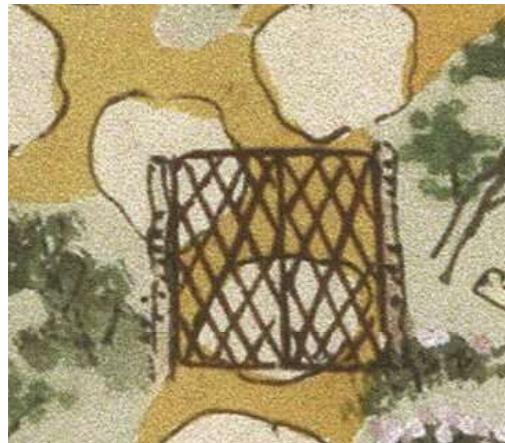


図1-1 枝折戸（余芳・北）

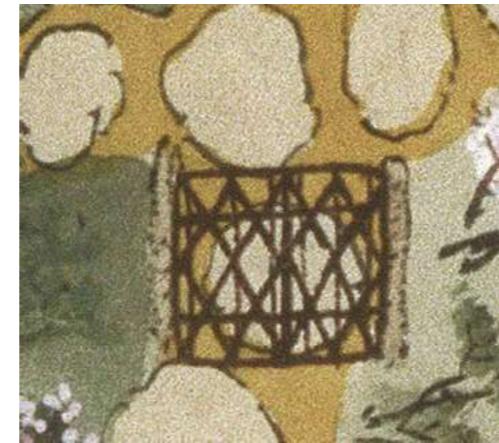


図1-2 枝折戸（余芳・西）

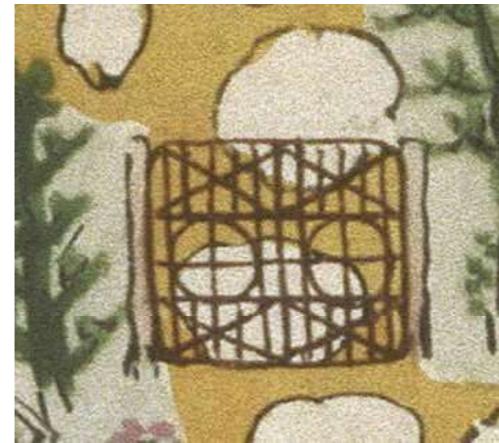


図1-3 枝折戸（余芳・南）

※竹材店聞き取り

(1) 扉部

タケの品種について、クロチクやハチクは割れやすいため、屋外に設置する枝折戸ではマダケが使用されることが多い。

(2) 柱

材料については、野趣の富む材料としてクヌギやアベマキ等が挙げられる。ただし、入手は困難であるため、事前確認が必要である。

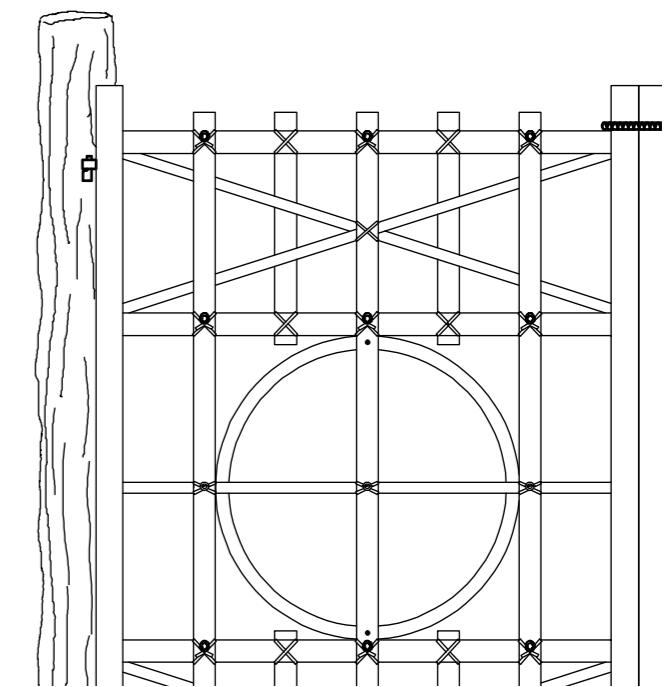
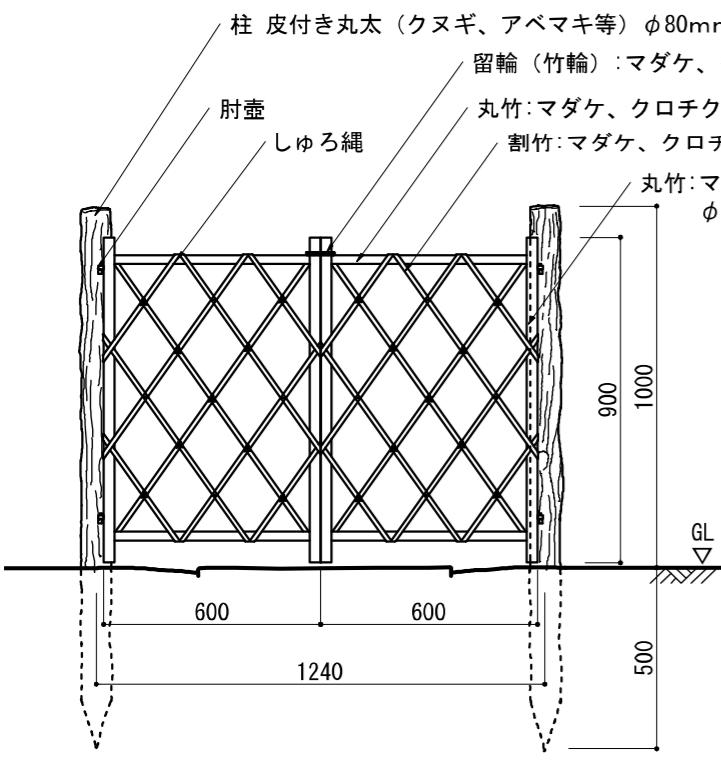
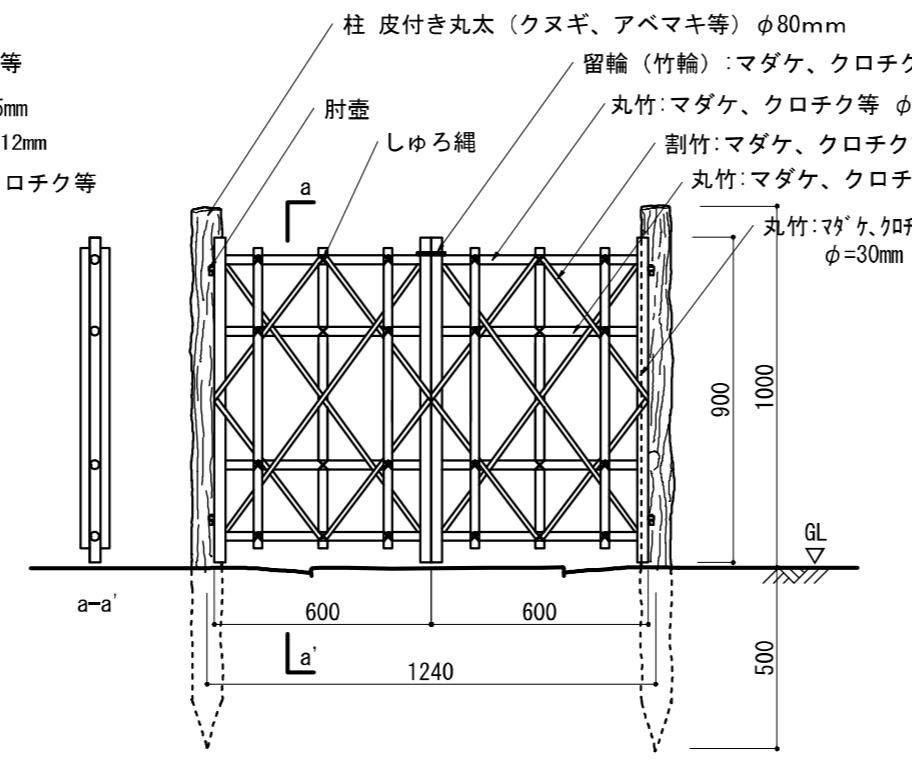


図2-5 しゆろ繩結束図



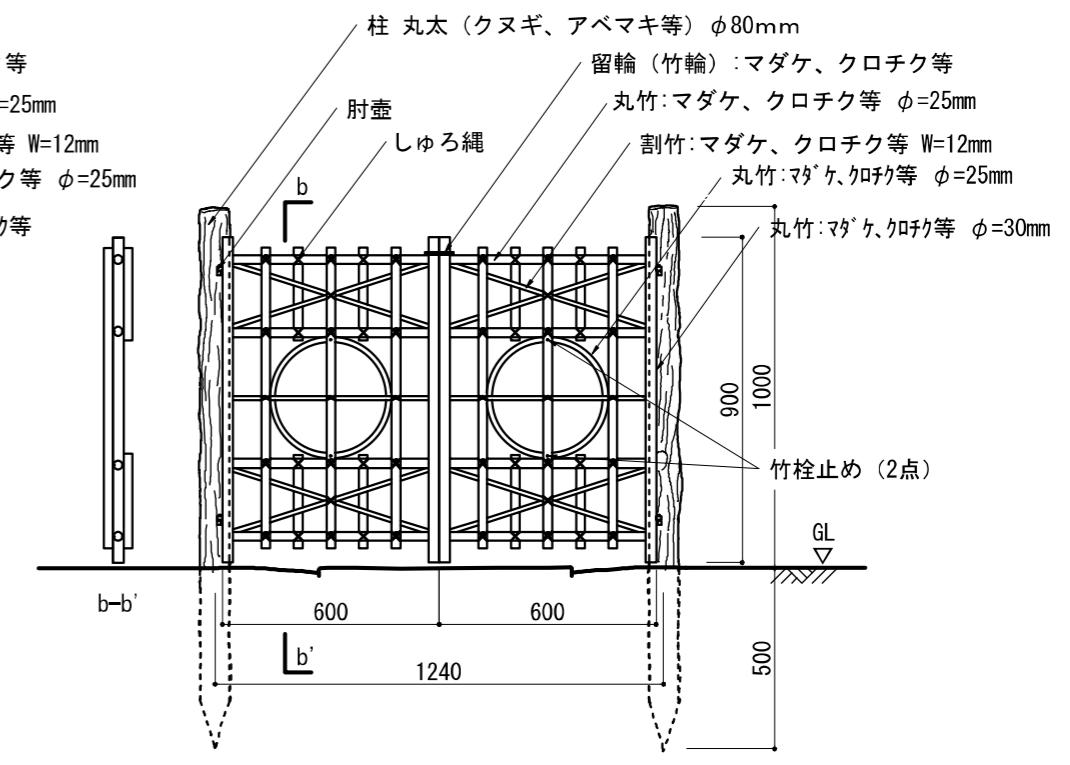
枝折戸-1

余芳枝折戸（北）立面図 S=1:20



枝折戸-2

余芳枝折戸（西）立面図 S=1:20



枝折戸-3

余芳枝折戸（南）立面図 S=1:20

図1-4 枝折戸構造検討図

2 袖垣の構造検討

- (1) 柱
 - ・檜磨き丸太とする。
- (2) 立子上部
 - ・立子上部は、腐食防止のため玉縁を施す。
- (3) 立子下部
 - ・立子下部は、腐食防止のため、透かして設置する。

※竹材店聽き取り

- ・図面寸法の構造に耐えうる太い竹はない。
- また、京都の宮内庁所管の庭では、使っていない。
- ・建仁寺垣で裾に板を設置する事例は、京都では見かけない。裾を透かす事例はある。

※『竹垣の話』（龍居庭園研究所編）には、裾にヌメ板を入れる図面が掲載されている。

（図3-4）



図2-1 袖垣『御城御庭絵図』部分
(名古屋市蓬左文庫所蔵)

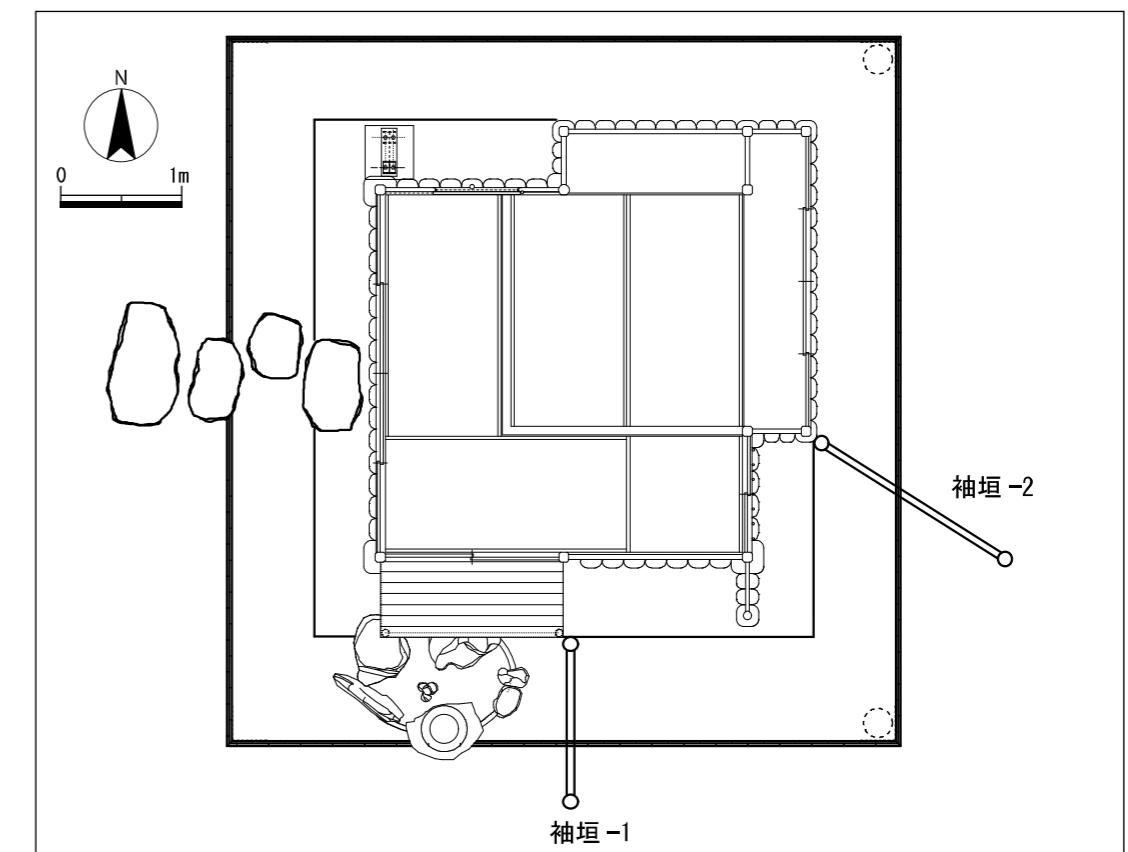


図2-2 袖垣配置平面図 S = 1 : 100

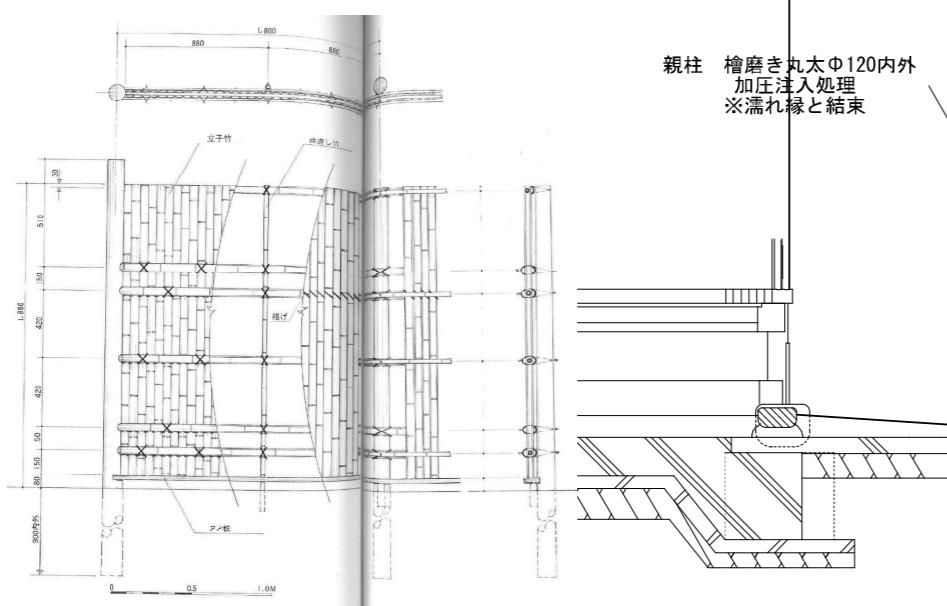


図2-4 建仁寺垣（ふりはなし合せ）
『竹垣の話』（龍居庭園研究所編）

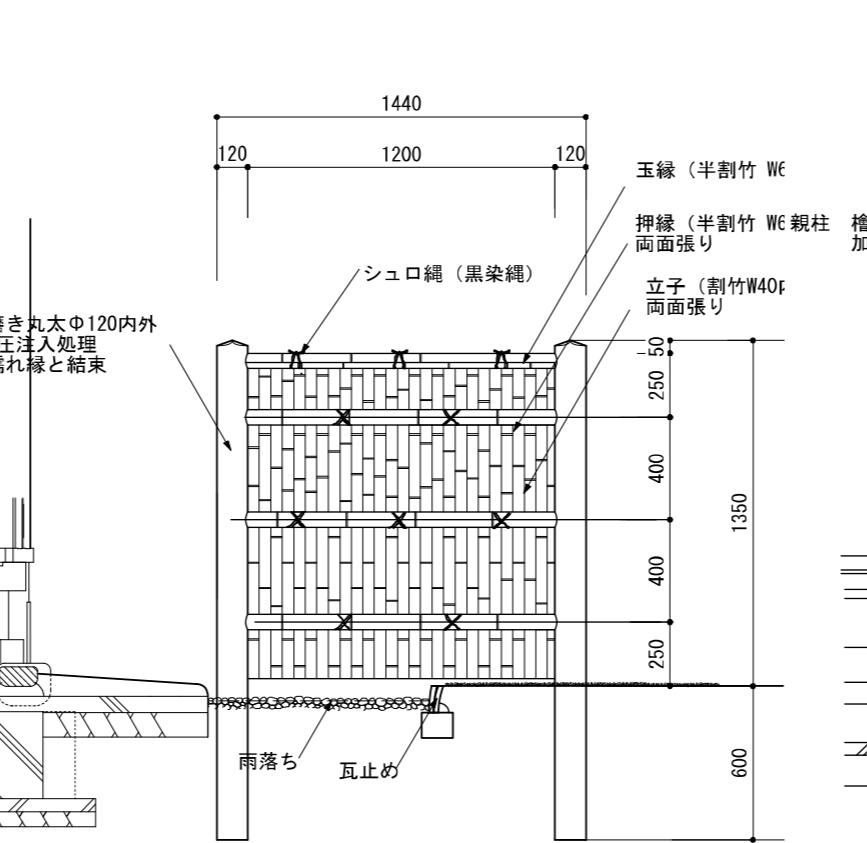


図2-3 袖垣構造検討図（南側・東側）S = 1 : 30

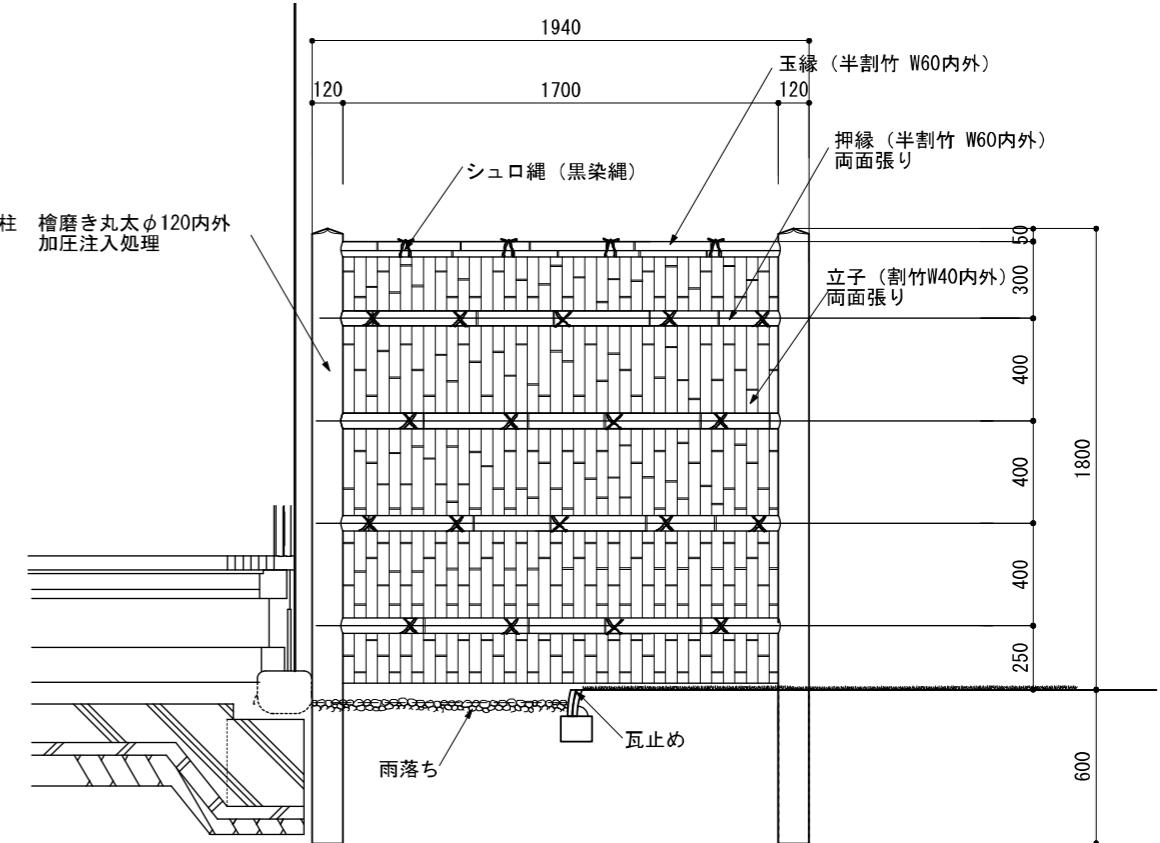


図2-3 袖垣構造検討図（南側・東側）S = 1 : 30